



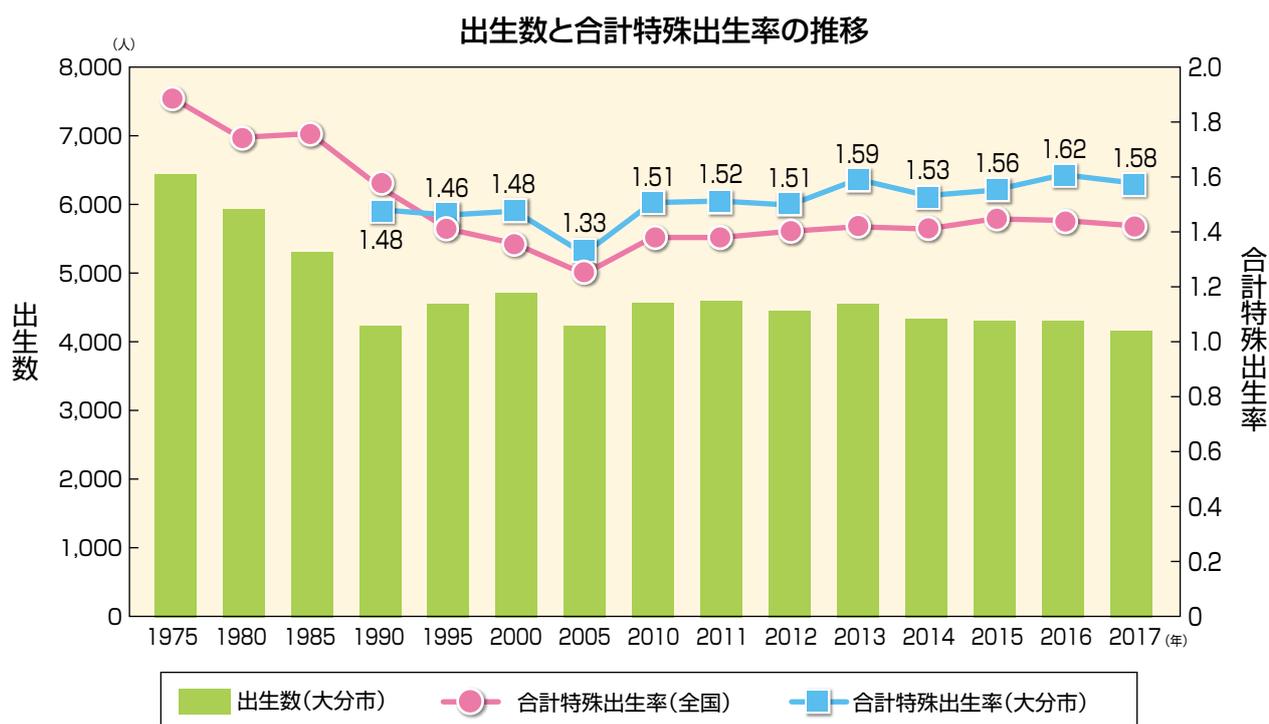
第2章

大分市の子育てを取り巻く環境

1. 出生数・合計特殊出生率の推移

本市の出生数は、2006（平成18）年から2013（平成25）年まで毎年およそ4,500人でほぼ横ばいの傾向でしたが、2014（平成26）年におよそ4,400人まで減少し、2017（平成29）年にはおよそ4,200人まで減少しました。

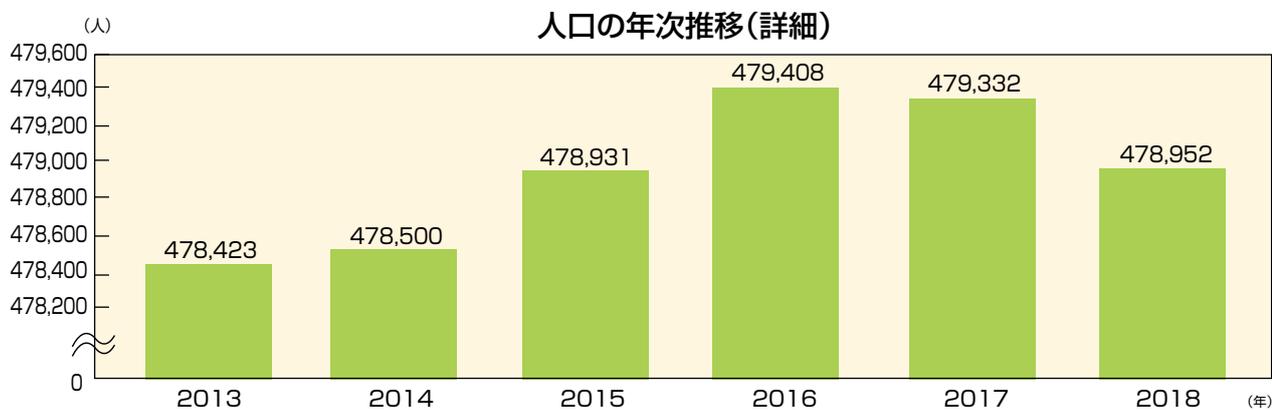
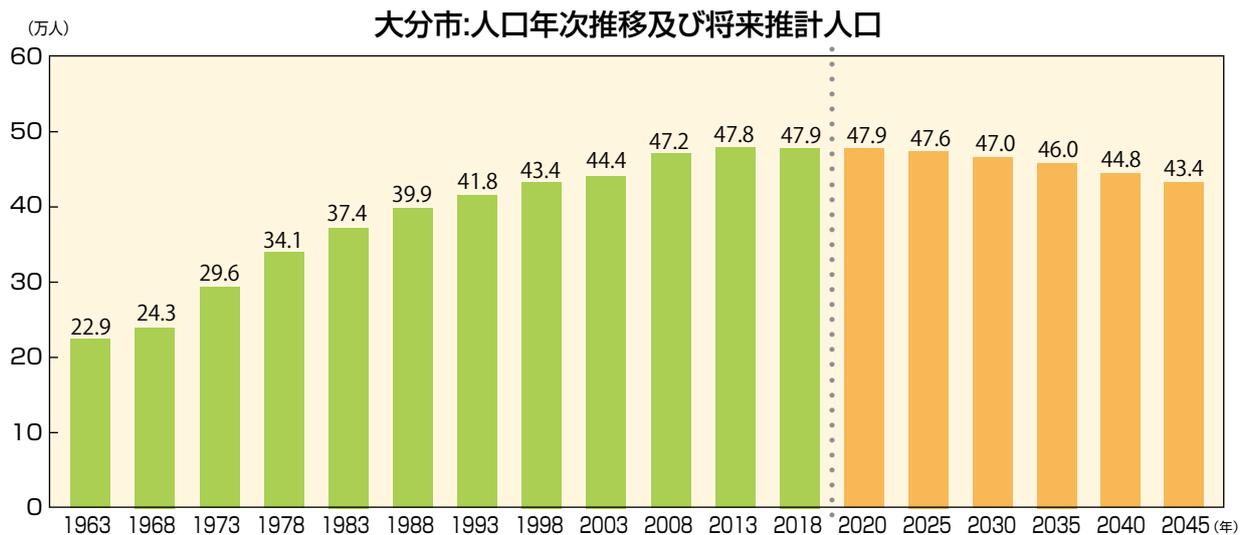
また、本市の合計特殊出生率*は、2005（平成17）年の1.33以降若干の増減を繰り返しながら上昇傾向にあり、2017（平成29）年は1.58となっています。全国の1.43と比較すると0.15ポイント高くなっていますが、人口置換水準*である2.06には及ばない状況であり、少子化の進行が予想されます。



出典：出生数 大分市『大分市統計年鑑（平成29年版）』
 合計特殊出生率 厚生労働省『人口動態統計』、大分市保健所

2. 人口推移と将来推計人口

本市の人口は、これまで年々増加してきましたが、2016（平成28）年以降、減少傾向にあります。また、今後の人口について、2015（平成27）年の国勢調査を基に2018（平成30）年に国立社会保障・人口問題研究所が公表した推計では、2020（令和2）年には479,341人、2025（令和7）年には476,205人とされ、その後も緩やかに減少していくことが見込まれています。

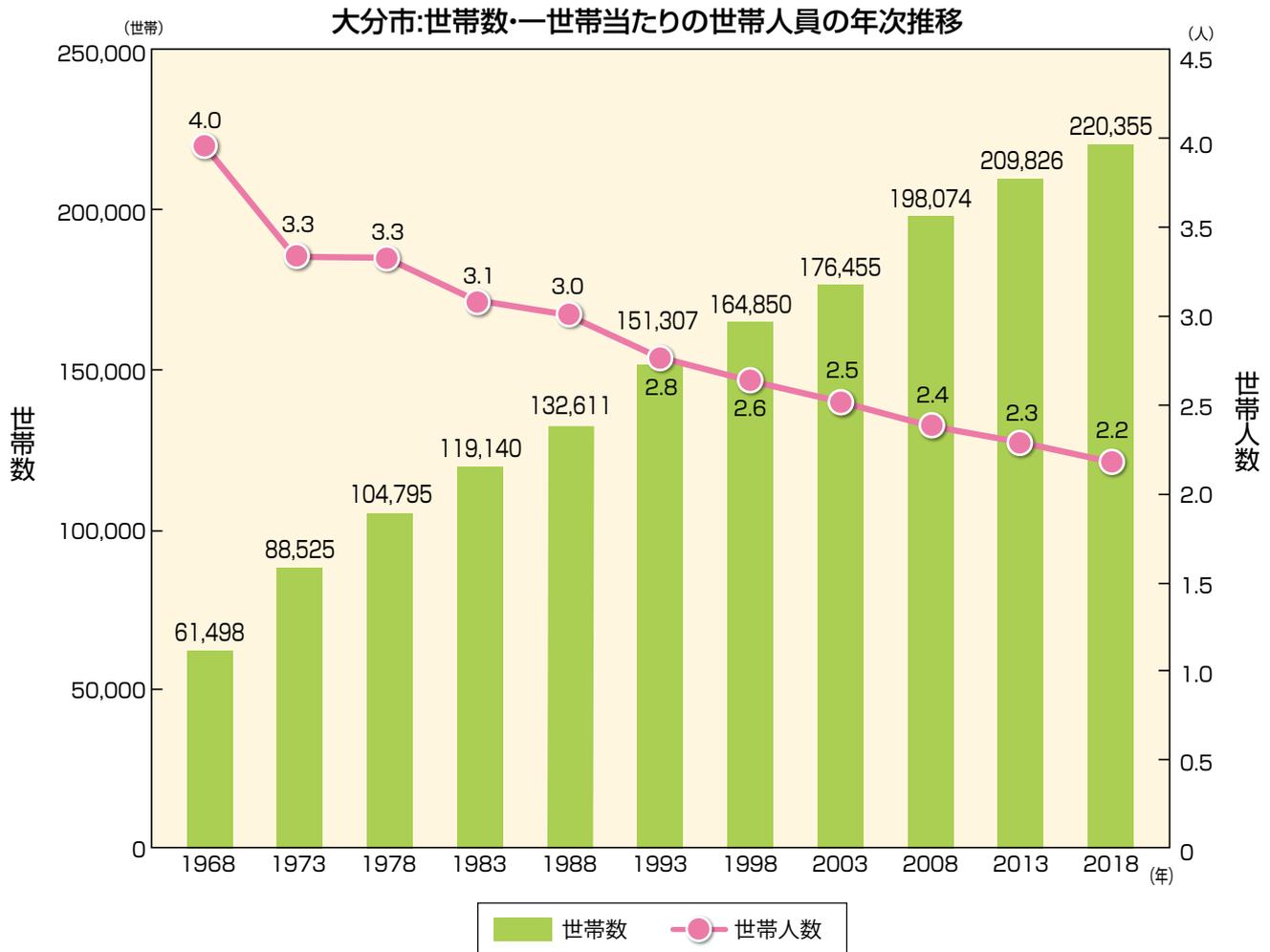


出典:実績値 大分市『住民基本台帳各年9月末』
 推計値 国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』
 (平成30(2018)年3月推計)



3. 世帯人員の推移

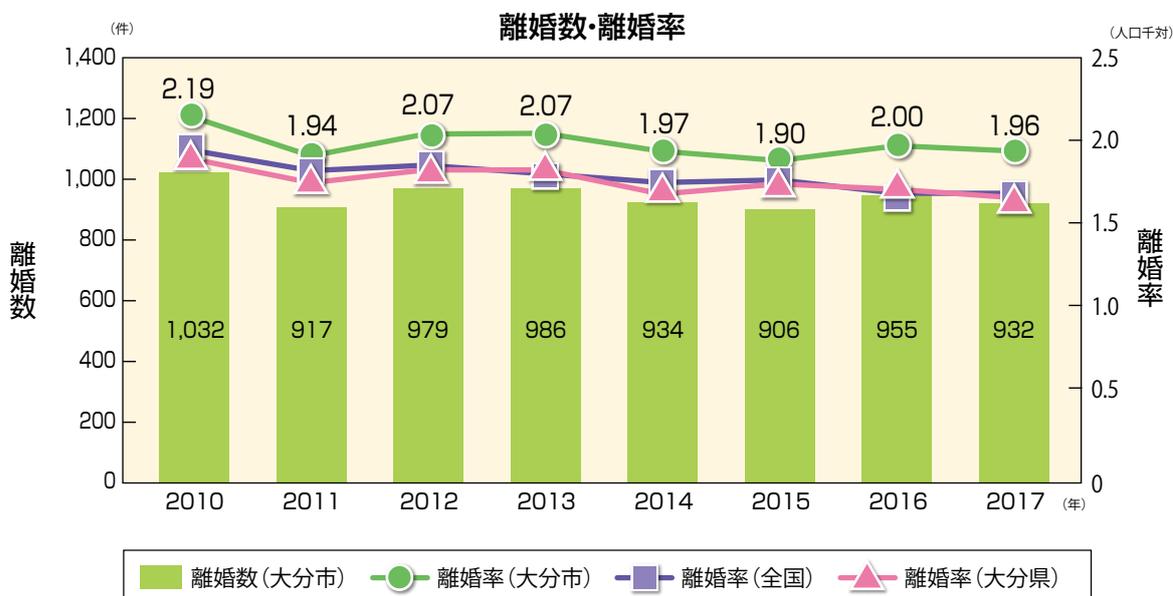
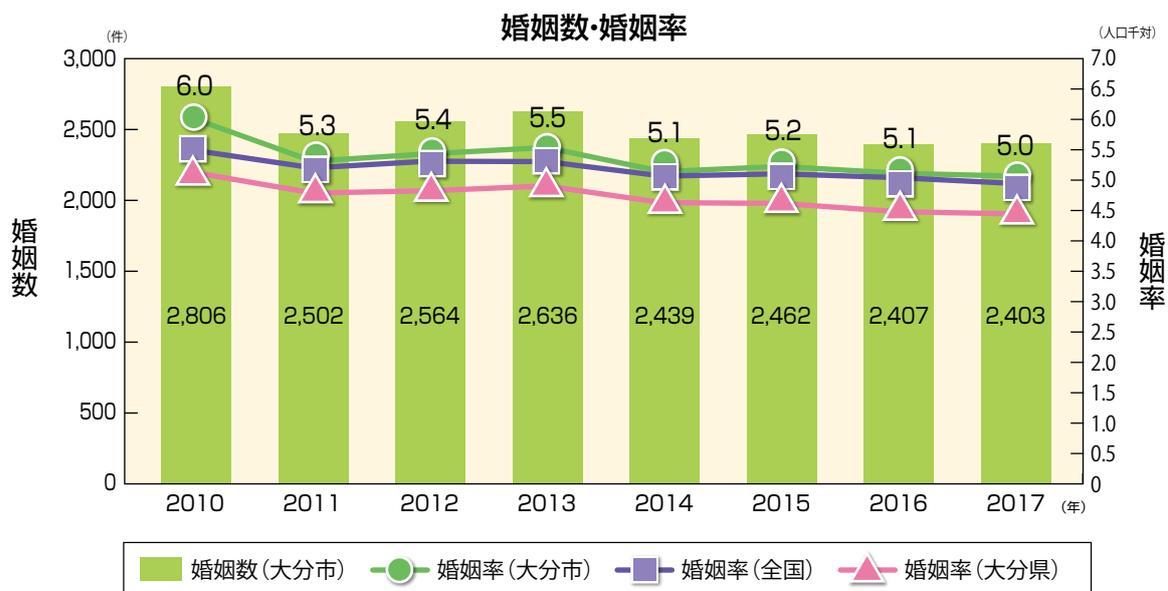
本市の世帯数は一貫して増加傾向にあり、2018（平成30）年9月末現在で220,355世帯と、1968（昭和43）年と比較して3倍以上となっています。一方、一世帯当たりの人員は年々減少傾向にあり、2018（平成30）年9月末現在は1968（昭和43）年と比較しておよそ半数の2.2人となり、小規模化が進行しています。



出典:大分市『住民基本台帳各年9月末』

4. 婚姻数・婚姻率と離婚数・離婚率の推移

本市の婚姻数は、2010（平成22）年の約2,800件から増減を繰り返しながら減少傾向にあります。また、離婚数は、2014（平成26）年以降平均930件ほどですが、離婚率は全国や大分県と比較すると、若干高くなっています。

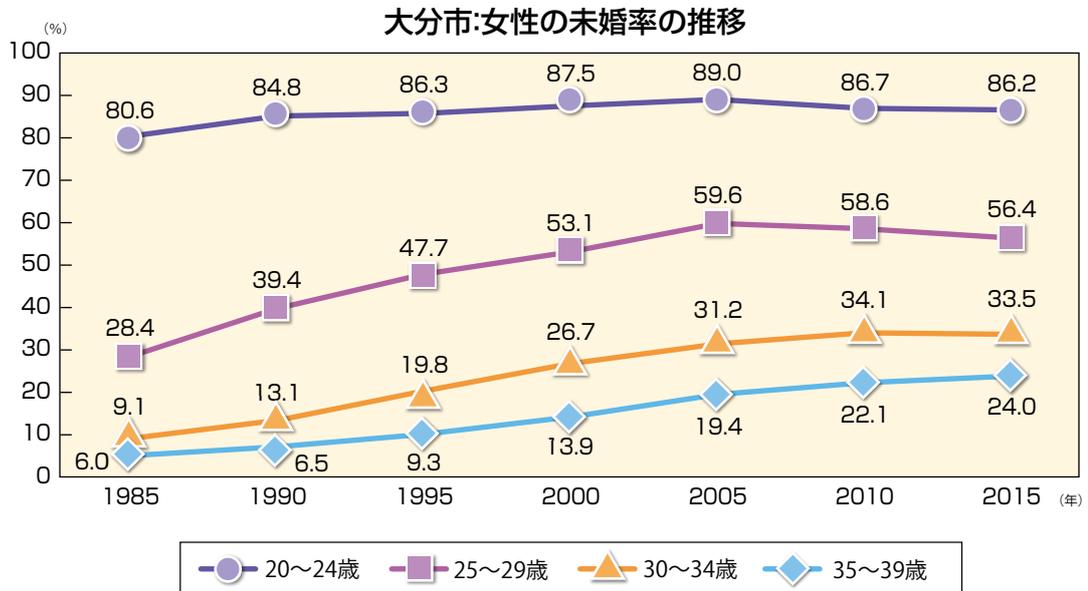
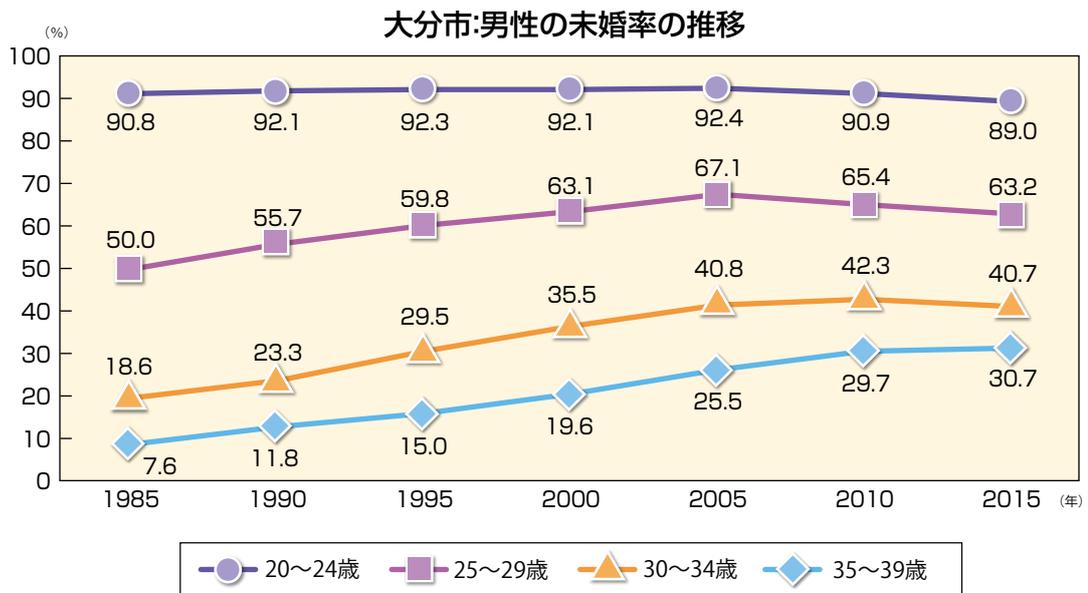


出典：厚生労働省『人口動態統計』



5. 未婚率の推移

本市の年齢5歳階級別未婚率は、2010（平成22）年と2015（平成27）年を比較すると、男女ともに20代前半から30代前半までは減少していますが、30代後半では、依然上昇傾向にあります。



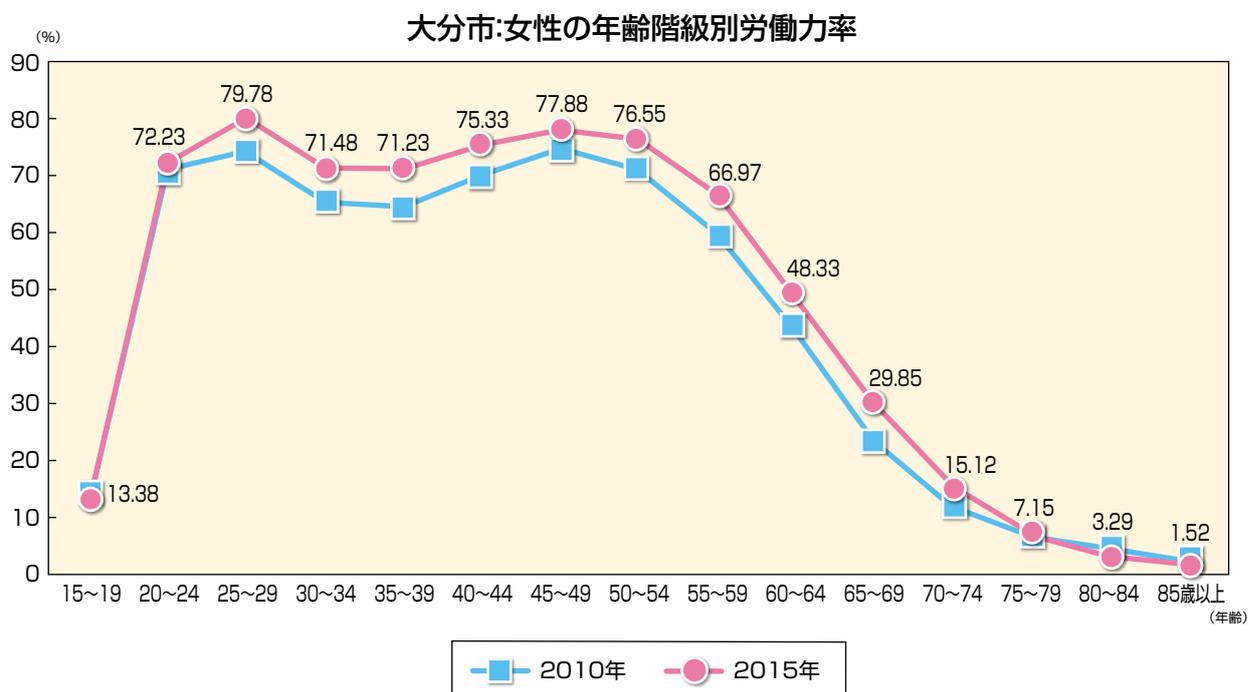
出典：総務省統計局「国勢調査」

6. 女性の労働力率

本市の女性の労働力率*を年齢別にみると、25～29歳と45～49歳を頂点とし、30～34歳、35～39歳で一旦沈みこむM字型を示しています。

一般に女性の就業率は、学校卒業後の年代で上昇し、その後、結婚・出産期に一旦低下し、子育てが落ち着いた時期に再び上昇するという、M字曲線を描くと言われていました。

2010(平成22)年と2015(平成27)年を比べると、15～19歳と80歳以上を除いてすべての年代で上昇しており、働いている、または働く意欲をもつ女性の割合は高まっています。



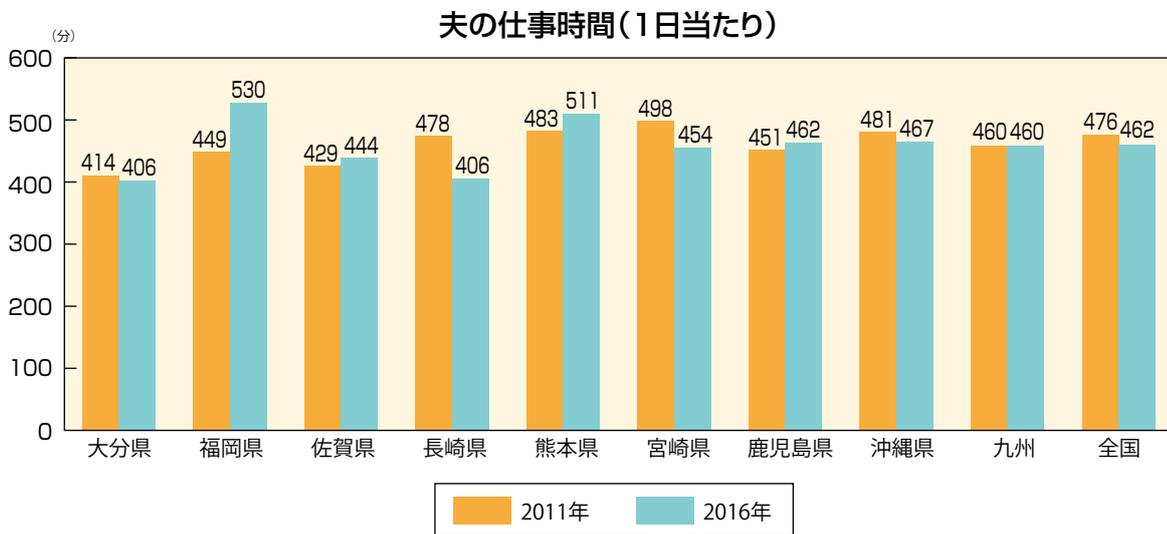
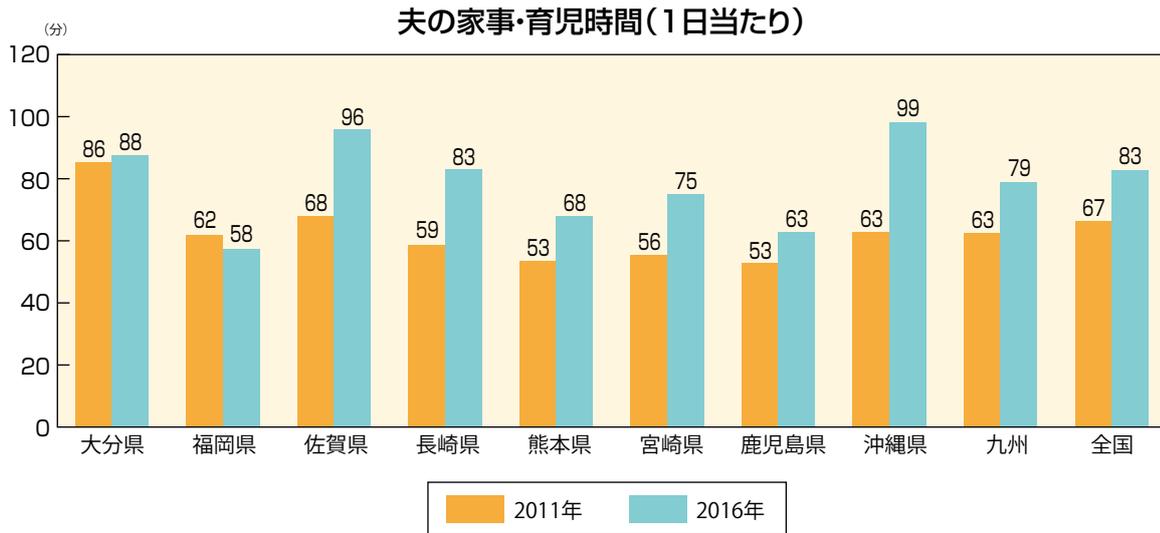
出典：総務省統計局「国勢調査」





7. 就学前の子どもを持つ夫の生活時間

大分県における就学前の子どもを持つ夫の家事・育児時間（1日当たり・週平均）は2011（平成23）年と2016（平成28）年を比較すると増加しており、男性の育児参加は若干進んでいます。一方、仕事時間も大分県では8分減少しており、九州では長崎県と並んで最も短くなっています。



出典：総務省『社会生活基本調査』